

「南三陸人」と集う一日 リピーター 狙い 確保

町観光協が新企画 個人客向けに月1回

南三陸町観光協会が、町の「人」にスポットを当てた個人観光客向けの新たなプログラムを企画した。3月から毎月1回、町内でまちづくりや商店などに携わる人をゲストに招き、講話や体験を通じて観光客と交流する取り組み。町人との触れ合いによって、復興の姿や南三陸の魅力を訪来者に伝えてリピーターを増やしていく。

町人招き講話や体験

「南三陸人と集う一日」と題した新プログラムは毎月1回、月替わりのゲストが「南三陸人」となって、東日本大震災当時の経験や復興に至るまでの苦労、現在の活動の様子などを語る。約1時間30分の中で、一方的に経験談を伝える形式ではなく、ゲストの業種などによって体験も交え、楽しみながらその人の魅力や思いを感じられるプログラムをつくる。

前副町長の遠藤健治さんがゲスト。震災から8年を振り返りながら、参加者と語り合つた。交流会は町人会館に集まり、町を訪問した観光客のうちに語り部など地元住民と交流する機会を持った人ほどリピーターになる傾向が強い。それぞれ

の中、団体向けの研修プログラムとして提供している内容を基に、個人客対象の新プログラムを立ち上げた形だ。協会は「まちに生きる人に触れ、南三陸の魅力を感じてほしい。プログラムを機に外とのつながりが生まれることで、町の課題解決へのヒントが得られる可能性もある」と話している。

参加費は1人3500円。最少催行人数は6人。4月以降のゲストなど詳しい内容はホームページに掲載している。問い合わせは同協会（電話47・2550）まで。

インフルに油断なく

気仙沼保健所管内 患者減るも警報継続

県は14日、第6週75人。前週から半数以徹底を呼び掛けている。(4～10日)の感染症発生動向調査週報を公表した。それによると、気仙沼保健所管内の1定点医療機関当たりの患者報告数は21・

仙南の43・88人。一番少なかった栗原でも15人だったため、全保健所管内で警報が発令されたままとなっている。気仙沼管内では今季、第3週(1月14日～20日)に53・75人の患者が報告された後、4～6週にかけて減少している。高齢者福祉

連った復興の道のりや思いなど、「人」に特化した観光コースは一定程度あるものと分析する。観光客の滞在時間を延ばし、いかに宿泊につなげるかが課題とな

3月23日の初回は、

県は14日、第6週75人。前週から半数以徹底を呼び掛けている。(4～10日)の感染症発生動向調査週報を公表した。それによると、気仙沼保健所管内の1定点医療機関当たりの患者報告数は21・

仙南の43・88人。一番少なかった栗原でも15人だったため、全保健所管内で警報が発令されたままとなっている。気仙沼管内では今季、第3週(1月14日～20日)に53・75人の患者が報告された後、4～6週にかけて減少している。高齢者福祉

水揚げが守られる。魚水揚げされたイサダは、庫も不足したため、キ...



決勝を快勝にしてなおみ節心待ち後継ぎ元号あと間近上り坂はあばの背中で孫ヨインヨ孫二十歳手間を惜しまぬ祝い膳喜寿の妻は俺の生活必需品

施設での集団発生も報告されたが、利用者の命に関わるケースではなかったという。インフルエンザはA型と、抗原性が異なるB型が流行する場合があります。市立病院によると、今季、13日までに同病院でインフルエンザと診断された人は全てA型で、「今後B型が出てくる可能性が」と注意喚起する。同保健所疾病対策班では「患者報告数は減ってきているが、警報が解除されない以上、油断はできない。これまで通り手洗いやマスク着用などの予防を徹底してほしい」と話している。